臺灣日日新報 昭和十八年七月二日（金曜日） （第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可） 第一万五千五百六十四號 A （一）

臺灣新民報

日刊夕刊共六頁 一部十錢 一月金一圓 三月金二圓九十錢 六月金五圓八十錢 一年金十一圓四十錢 廣告料 一行金一圓 一日十七時三十分

ソロモン、レンドバ島上陸の敵を猛攻

輸送船六、巡艦三擊沈破

【東京發三日發表】大本營發表（一日十七時三十分）

一、六月卅日早朝ソロモン群島レンドバ島方面に敵輸送船、巡洋艦團來襲せり

二、帝國海軍航空部隊は此の敵に對し數次に亙り果敢なる攻撃を加へ、輸送船六隻、巡洋艦三隻、驅逐艦一隻を撃沈破し敵機三十一機以上を撃墜せり

三、同方面帝國陸海軍部隊は緊密なる共同の下に作戰飛行中なり

米軍徹底撃滅の秋

米國に正義人道なし

羊頭狗肉の政策に終始

堀部情報局總裁談話

【東京三日發】堀部情報局總裁は三日午後三時より同局第一會議室に於て記者團と會見、米國の對日宣傳戰に關し左の如く談話を發表した

米國の對日宣傳戰は今や全く行詰りの狀態に陷つてゐる、米國は今日迄日本に對し正義人道を標榜し、日本の政策は羊頭狗肉であると宣傳して來たが、日本人は米國の政策こそ羊頭狗肉であることを知つてゐる、米國は日本人の心を知らないのである、米國は日本人の心を知らないから日本人の心を摑むことが出來ないのである、米國は日本人の心を摑むことが出來ないから日本人を理解することが出來ないのである、米國は日本人を理解することが出來ないから日本人を敵とすることが出來ないのである、米國は日本人を敵とすることが出來ないから日本人を屈服することが出來ないのである、米國は日本人を屈服することが出來ないから日本人を滅ぼすことが出來ないのである、米國は日本人を滅ぼすことが出來ないから日本人を征服することが出來ないのである、米國は日本人を征服することが出來ないから日本人を奴隷とすることが出來ないのである、米國は日本人を奴隷とすることが出來ないから日本人を動かすことが出來ないのである、米國は日本人を動かすことが出來ないから日本人を支配することが出來ないのである、米國は日本人を支配することが出來ないから日本人を指導することが出來ないのである、米國は日本人を指導することが出來ないから日本人を率ゐることが出來ないのである、米國は日本人を率ゐることが出來ないから日本人を統べることが出來ないのである、米國は日本人を統べることが出來ないから日本人を治めることが出來ないのである、米國は日本人を治めることが出來ないから日本人を愛することが出來ないのである、米國は日本人を愛することが出來ないから日本人を憎むことが出來ないのである、米國は日本人を憎むことが出來ないから日本人を殺すことが出來ないのである、米國は日本人を殺すことが出來ないから日本人を生かすことが出來ないのである、米國は日本人を生かすことが出來ないから日本人を死なせることが出來ないのである、米國は日本人を死なせることが出來ないから日本人を葬ることが出來ないのである、米國は日本人を葬ることが出來ないから日本人を弔ふことが出來ないのである、米國は日本人を弔ふことが出來ないから日本人を祭ることが出來ないのである、米國は日本人を祭ることが出來ないから日本人を祀ることが出來ないのである、米國は日本人を祀ることが出來ないから日本人を拜むことが出來ないのである、米國は日本人を拜むことが出來ないから日本人を崇めることが出來ないのである、米國は日本人を崇めることが出來ないから日本人を尊ぶことが出來ないのである、米國は日本人を尊ぶことが出來ないから日本人を敬ふことが出來ないのである、米國は日本人を敬ふことが出來ないから日本人を仰ぐことが出來ないのである、米國は日本人を仰ぐことが出來ないから日本人を戴くことが出來ないのである、米國は日本人を戴くことが出來ないから日本人を頂くことが出來ないのである、米國は日本人を頂くことが出來ないから日本人を冠することが出來ないのである、米國は日本人を冠することが出來ないから日本人を被ることが出來ないのである、米國は日本人を被ることが出來ないから日本人を着ることが出來ないのである、米國は日本人を着ることが出來ないから日本人を纏ふことが出來ないのである、米國は日本人を纏ふことが出來ないから日本人を包むことが出來ないのである、米國は日本人を包むことが出來ないから日本人を蔽ふことが出來ないのである、米國は日本人を蔽ふことが出來ないから日本人を隱すことが出來ないのである、米國は日本人を隱すことが出來ないから日本人を匿ふことが出來ないのである、米國は日本人を匿ふことが出來ないから日本人を庇ふことが出來ないのである、米國は日本人を庇ふことが出來ないから日本人を護ることが出來ないのである、米國は日本人を護ることが出來ないから日本人を守ることが出來ないのである、米國は日本人を守ることが出來ないから日本人を衛ることが出來ないのである、米國は日本人を衛ることが出來ないから日本人を防ぐことが出來ないのである、米國は日本人を防ぐことが出來ないから日本人を禦ぐことが出來ないのである、米國は日本人を禦ぐことが出來ないから日本人を拒むことが出來ないのである、米國は日本人を拒むことが出來ないから日本人を斥けることが出來ないのである、米國は日本人を斥けることが出來ないから日本人を排することが出來ないのである、米國は日本人を排することが出來ないから日本人を除くことが出來ないのである、米國は日本人を除くことが出來ないから日本人を去ることが出來ないのである、米國は日本人を去ることが出來ないから日本人を離れることが出來ないのである、米國は日本人を離れることが出來ないから日本人を別つことが出來ないのである、米國は日本人を別つことが出來ないから日本人を分つことが出來ないのである、米國は日本人を分つことが出來ないから日本人を割くことが出來ないのである、米國は日本人を割くことが出來ないから日本人を裂くことが出來ないのである、米國は日本人を裂くことが出來ないから日本人を破ることが出來ないのである、米國は日本人を破ることが出來ないから日本人を壞すことが出來ないのである、米國は日本人を壞すことが出來ないから日本人を毀つことが出來ないのである、米國は日本人を毀つことが出來ないから日本人を損ふことが出來ないのである、米國は日本人を損ふことが出來ないから日本人を傷つけることが出來ないのである、米國は日本人を傷つけることが出來ないから日本人を害することが出來ないのである、米國は日本人を害することが出來ないから日本人を殺すことが出來ないのである、米國は日本人を殺すことが出來ないから日本人を生かすことが出來ないのである、米國は日本人を生かすことが出來ないから日本人を死なせることが出來ないのである、米國は日本人を死なせることが出來ないから日本人を葬ることが出來ないのである、米國は日本人を葬ることが出來ないから日本人を弔ふことが出來ないのである、米國は日本人を弔ふことが出來ないから日本人を祭ることが出來ないのである、米國は日本人を祭ることが出來ないから日本人を祀ることが出來ないのである、米國は日本人を祀ることが出來ないから日本人を拜むことが出來ないのである、米國は日本人を拜むことが出來ないから日本人を崇めることが出來ないのである、米國は日本人を崇めることが出來ないから日本人を尊ぶことが出來ないのである、米國は日本人を尊ぶことが出來ないから日本人を敬ふことが出來ないのである、米國は日本人を敬ふことが出來ないから日本人を仰ぐことが出來ないのである、米國は日本人を仰ぐことが出來ないから日本人を戴くことが出來ないのである、米國は日本人を戴くことが出來ないから日本人を頂くことが出來ないのである、米國は日本人を頂くことが出來ないから日本人を冠することが出來ないのである、米國は日本人を冠することが出來ないから日本人を被ることが出來ないのである、米國は日本人を被ることが出來ないから日本人を着ることが出來ないのである、米國は日本人を着ることが出來ないから日本人を纏ふことが出來ないのである、米國は日本人を纏ふことが出來ないから日本人を包むことが出來ないのである、米國は日本人を包むことが出來ないから日本人を蔽ふことが出來ないのである、米國は日本人を蔽ふことが出來ないから日本人を隱すことが出來ないのである、米國は日本人を隱すことが出來ないから日本人を匿ふことが出來ないのである、米國は日本人を匿ふことが出來ないから日本人を庇ふことが出來ないのである、米國は日本人を庇ふことが出來ないから日本人を護ることが出來ないのである、米國は日本人を護ることが出來ないから日本人を守ることが出來ないのである、米國は日本人を守ることが出來ないから日本人を衛ることが出來ないのである、米國は日本人を衛ることが出來ないから日本人を防ぐことが出來ないのである、米國は日本人を防ぐことが出來ないから日本人を禦ぐことが出來ないのである、米國は日本人を禦ぐことが出來ないから日本人を拒むことが出來ないのである、米國は日本人を拒むことが出來ないから日本人を斥けることが出來ないのである、米國は日本人を斥けることが出來ないから日本人を排することが出來ないのである、米國は日本人を排することが出來ないから日本人を除くことが出來ないのである、米國は日本人を除くことが出來ないから日本人を去ることが出來ないのである、米國は日本人を去ることが出來ないから日本人を離れることが出來ないのである、米國は日本人を離れることが出來ないから日本人を別つことが出來ないのである、米國は日本人を別つことが出來ないから日本人を分つことが出來ないのである、米國は日本人を分つことが出來ないから日本人を割くことが出來ないのである、米國は日本人を割くことが出來ないから日本人を裂くことが出來ないのである、米國は日本人を裂くことが出來ないから日本人を破ることが出來ないのである、米國は日本人を破ることが出來ないから日本人を壞すことが出來ないのである、米國は日本人を壞すことが出來ないから日本人を毀つことが出來ないのである、米國は日本人を毀つことが出來ないから日本人を損ふことが出來ないのである、米國は日本人を損ふことが出來ないから日本人を傷つけることが出來ないのである、米國は日本人を傷つけることが出來ないから日本人を害することが出來ないのである

地方長官會議契機に

地方行政飛躍前進

協議會運營方針近く決定

【東京三日發】

翼贊運動の改變檢討

臨時地方長官會議

二大決戰施策を滲透

十九日に

來襲敵機十一を撃墜

コロンバンガラ島、イサベル島

【ニューヨーク三日發同盟】

我國地方行政史上特筆する人的配備

内務人事大異動總評

【東京三日發】

清郷は郷土人の手で

汪主席 日華記者團に答ふ

【南京三日發】

實務接收委員會設置

市政府、工部局、日本側で構成

【上海三日發同盟】

民間達識者も選任

第二回行政査察使隨員任命

【東京三日發】

東京都歷史的發足

【東京三日發】

翼贊會全面的協力

【東京三日發】

ラウレル氏狙撃犯人

首魁以下一味四名逮捕

【マニラ三日發同盟】

定期敍位

【東京三日發】

人事

【東京三日發】

南洋群島始政二十五周年記念式典

【東京三日發】

刑務所長異動

【東京三日發】

戰時行政の態勢整備

安藤內相所感を述ぶ

【東京三日發】

戰時行政の特例

十七條を內閣と樞密院で審議

【東京三日發】

國債發行額を決定

【東京三日發】

閣議

【東京三日發】

官報

【東京三日發】

けふの官報

【東京三日發】

臺灣日日新報　第一万五千五百六十四號　昭和十八年七月二日（金曜日）

社說

（二）山積する苦難の克服

これぞ敵米英撃滅の前提

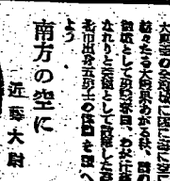
敵の戰爭目的は「開戰前十年の國に人類同の幸福を與へた根源のは埋めたに十年に滅されい」と言つたが、之は人類の進歩發展を阻害するものに外ならない。而して、この事實には敵米英自身も認めるものに外ならない。

然るに米英流の經濟文化は、平和建設、人類福祉の名の下に、その實を擧げようとする努力であつて、特に經濟的な自由競爭と個人の營利を基調とするものであつた。そして米英文化に憧れてゐた諸國も米英流の自由主義經濟を採り入れ、過去四十年間に於ける經濟發展もそれに依つたものである。

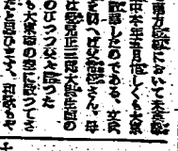
斯くしてこの經濟を基調として結成された國際の經濟と米の時代の到來であるが、之には國家統制を否定するものであるから、國家の經濟統制が發展し、敵米英の經濟戰爭に對しても、敵米英の經濟戰爭に對しても、敵米英の經濟戰爭に對しても

壯烈征戰に散る

南方の空に
近藤大尉

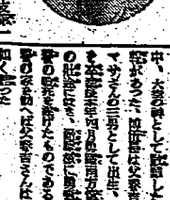


南の大空に
福田伍長



湖北省に奮戦
井筆中尉

南方第一線に
根井上等兵



南支に陣歿
方健来軍曹

馳せ參ず適格青年

島都は千八百餘名

松山を筆頭に堰切る

既に二萬九千餘名

百%の好成績

早くも四萬に達す

臺大初代工學部長

安藤一雄博士に決定

嚴肅なる記念式

厦門特別市政府成立四周年

重要加入者に利便

「電話の決戦態勢」實施

石油と燃料の泰斗

工業臺灣へ期待大

鉄の豆戰士、稻刈にお手柄

一番乘りは夜中の客時

係員汗ダク

一萬一千餘名

未明から殺到

率先インテリ青年

南洲神社で東京都制施行奉告祭

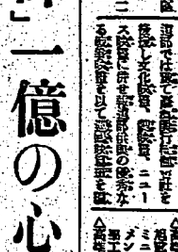
家庭園藝の徹底を期す

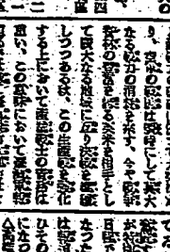
戰ふ生先と成錬とつらつは

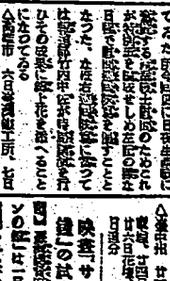
「玉碎」一億の心に生く

軍を信賴、仇敵撃滅の決意固めよ

高橋大將島都で獅子吼







榮光の海軍志願兵

志願書机上に山積

高雄市早二千數百名

武官府へ血書の歎願

少年兵へ血躍る

新竹州で又も二十二名

臺中では身體檢査

尊き體驗活かして

小川君銃後で農耕に挺身

燦・大和魂の權化

緬甸作戰の華西伍長

最期を讃ふ隊長切々の詩

本島南部に於ける雨季蔬菜栽培に就て【下】

十分見込みはある

農學博士　江口庸雄

知事官邸で紙芝居

空の防人へ熱誠

高雄市で大口寄金

擊滅の鬪魂を結集

盛ん、北港街の國民大會

大いなる祭

中野貨作

三芳悌吉畫

産增へ立派に一役

宜蘭郷軍で近く耐熱行軍

菊元支店員が勇士に善意

空の防人へ熱誠

高雄市で大口寄金

擊滅の鬪魂を結集

盛ん、北港街の國民大會

世人皆感激

母子の病軀を指導し部落指導に挺身

をゞにも愛國青年

是非海軍工員にと懇願

新營街でも

織火の叫び

臺中では身體檢査

燦・大和魂の權化

緬甸作戰の華西伍長

最期を讃ふ隊長切々の詩

夕刊 臺灣新民報 (第二刷) (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十八年七月二日 (金曜日) 臺灣日日新報 第一万五千五百六十四號 (一)

東京都長官に大達氏
地方協議會會長、知事發令

【東京發電】東京都の新陣容は二日發令を以て次の如く發表された

東京都長官 大達茂雄 (内務省地方局長)
東京都次官 吉井 重賢 (内務省土木局長)
東京都警視總監 安倉 清 (内務省警保局保安課長)
東京都特別高等警察部長 藤原 銀次郎 (内務省警保局保安課特別高等警察課長)
東京都第一部長 三浦 一雄 (内務省地方局行政課長)
東京都第二部長 相川 勝六 (内務省地方局財政課長)
東京都第三部長 吉田 茂 (内務省地方局有志課長)
東京都第四部長 大野 緑一郎 (内務省地方局土木課長)
東京都第五部長 古池 良三郎 (内務省地方局都市計畫課長)
東京都第六部長 吉野 信次 (内務省地方局産業部長)
東京都第七部長 高橋 高明 (内務省地方局勞務課長)
東京都第八部長 坂千秋 (内務省地方局厚生課長)
東京都第九部長 荒木 泰夫 (内務省地方局國民防空課長)
東京都第十部長 土肥 米之氏 (内務省地方局國民組織課長)
東京都第十一部長 田中 敬一氏 (内務省地方局勞務調整官)
東京都第十二部長 加藤 於菟丸氏 (内務省地方局庶務課長)
東京都第十三部長 横井 太郎 (内務省地方局事務官)
東京都第十四部長 山口 敏夫 (内務省地方局事務官)
東京都第十五部長 内藤 清五 (内務省地方局事務官)
東京都第十六部長 玉置 敏一 (内務省地方局事務官)
東京都第十七部長 小川 正義 (内務省地方局事務官)
東京都第十八部長 山本 孝 (内務省地方局事務官)
東京都第十九部長 谷川 昇 (内務省地方局事務官)
東京都第二十部長 岡崎 重徳 (内務省地方局事務官)
東京都第二十一部長 南条 徳男 (内務省地方局事務官)
東京都第二十二部長 林 誠 (内務省地方局事務官)
東京都第二十三部長 玄梁 祥治 (内務省地方局事務官)
東京都第二十四部長 井田 完二 (内務省地方局事務官)
東京都第二十五部長 乾 武兵衛 (内務省地方局事務官)
東京都第二十六部長 百原 寿二 (内務省地方局事務官)
東京都第二十七部長 宇佐美 誠次郎 (内務省地方局事務官)
東京都第二十八部長 小幡 治一 (内務省地方局事務官)
東京都第二十九部長 吉原 一郎 (内務省地方局事務官)
東京都第三十部長 三好 重夫 (内務省地方局事務官)
東京都第三十一部長 内田 信也 (内務省地方局事務官)
東京都第三十二部長 横山 助成 (内務省地方局事務官)
東京都第三十三部長 吉野 信次 (内務省地方局事務官)
東京都第三十四部長 大達 茂雄 (内務省地方局事務官)

内務省地方局長 吉井 重賢
京都府知事 安倉 清
内務省警保局保安課長 藤原 銀次郎
大阪府知事 三浦 一雄
内務省地方局行政課長 相川 勝六
内務省地方局財政課長 吉田 茂
内務省地方局有志課長 大野 緑一郎
内務省地方局土木課長 古池 良三郎
内務省地方局都市計畫課長 吉野 信次
内務省地方局産業部長 高橋 高明
内務省地方局勞務課長 坂 千秋
内務省地方局厚生課長 荒木 泰夫
内務省地方局國民防空課長 土肥 米之氏
内務省地方局國民組織課長 田中 敬一氏
内務省地方局勞務調整官 加藤 於菟丸
内務省地方局庶務課長 横井 太郎
内務省地方局事務官 山口 敏夫
内務省地方局事務官 内藤 清五
内務省地方局事務官 玉置 敏一
内務省地方局事務官 小川 正義
内務省地方局事務官 山本 孝
内務省地方局事務官 谷川 昇
内務省地方局事務官 岡崎 重徳
内務省地方局事務官 南条 徳男
内務省地方局事務官 林 誠
内務省地方局事務官 玄梁 祥治
内務省地方局事務官 井田 完二
内務省地方局事務官 乾 武兵衛
内務省地方局事務官 百原 寿二
内務省地方局事務官 宇佐美 誠次郎
内務省地方局事務官 小幡 治一
内務省地方局事務官 吉原 一郎
内務省地方局事務官 三好 重夫
内務省地方局事務官 内田 信也
内務省地方局事務官 横山 助成
内務省地方局事務官 吉野 信次
内務省地方局事務官 大達 茂雄

大達茂雄氏

前田多門氏

河原田稼吉氏

吉田茂氏

内田信也氏

吉野信次氏

相川勝六氏

吉田茂氏

大達茂雄氏

大達都長官親任式

【東京發電】吹く

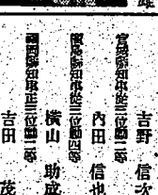
天皇陛下には午前十時五十分御參內ノ向ヒ、宮殿竹の間に於いて東京都長官に親任される前田多門氏に對し親任式を行はせられた。次いで午前十一時二十分御參內の向ひ、同じく竹の間に於いて東京都第一部長以下各部長に對し親任式を行はせられた。この日大臣は午前中十分の中に參內、同九時五十分御歸邸ノ向ニ御見送る。

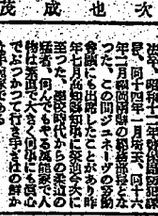
武勳を犒はせらる
小松中將以下六提督參內

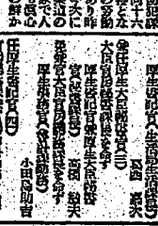
【東京發電】第二艦隊に屬く戰艦を主力とするミッドウェー海戰に於いて敵空母二隻を撃沈、大破一隻、內巡洋艦を撃沈破し、敵航空機多數を撃墜破し、我が空母一隻を喪ひ、巡洋艦大破を受けた二日夜、九時四分相次で宮中に參內、天皇陛下には午前十時宮殿竹の間に出御あらせられ左の如き勅語を賜ふ

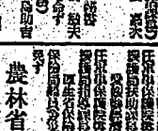
【東京發電】第二艦隊に屬く戰艦を主力とするミッドウェー海戰に於いて敵空母二隻を撃沈、大破一隻、內巡洋艦を撃沈破し、敵航空機多數を撃墜破し、我が空母一隻を喪ひ、巡洋艦大破を受けた二日夜、九時四分相次で宮中に參內、天皇陛下には午前十時宮殿竹の間に出御あらせられ左の如き勅語を賜ふ

勅語 汝等ひつさげられ同中將は細田海相より

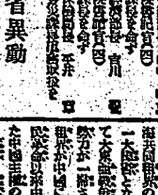

小松輝久中將

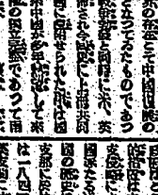

細田吉藏海相

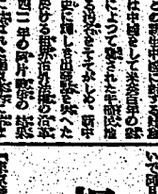

田中啓一

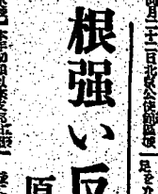

桑宮紀

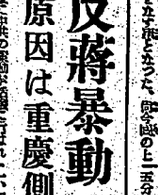
小向正義


三浦一雄

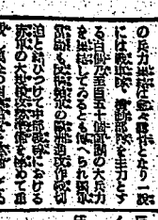

相川勝六

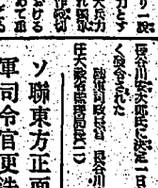

吉田茂

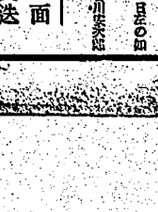

大野緑一郎

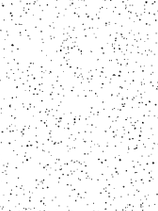

古池良三郎

吉野信次


高橋高明


坂千秋


荒木泰夫


土肥米之氏

田中敬一氏

加藤於菟丸氏

横井太郎

山口敏夫

内藤清五

玉置敏一

小川正義

山本孝

谷川昇

岡崎重徳

南条徳男

林誠

玄梁祥治

井田完二

乾武兵衛

百原寿二

宇佐美誠次郎

小幡治一

吉原一郎

三好重夫

内田信也

横山助成

吉野信次

大達茂雄

決戰行政全陣容整ふ
大物を 重用 小松中將以下六提督參內

【東京發電】第二艦隊に屬く戰艦を主力とするミッドウェー海戰に於いて敵空母二隻を撃沈、大破一隻、內巡洋艦を撃沈破し、敵航空機多數を撃墜破し、我が空母一隻を喪ひ、巡洋艦大破を受けた二日夜、九時四分相次で宮中に參內、天皇陛下には午前十時宮殿竹の間に出御あらせられ左の如き勅語を賜ふ

勅語 汝等ひつさげられ同中將は細田海相より

小松輝久中將

細田吉藏海相

田中啓一

桑宮紀

小向正義

三浦一雄

相川勝六

吉田茂

大野緑一郎

古池良三郎

吉野信次

高橋高明

坂千秋

荒木泰夫

土肥米之氏

田中敬一氏

加藤於菟丸氏

横井太郎

山口敏夫

内藤清五

玉置敏一

小川正義

山本孝

谷川昇

岡崎重徳

南条徳男

林誠

玄梁祥治

井田完二

乾武兵衛

百原寿二

宇佐美誠次郎

小幡治一

吉原一郎

三好重夫

内田信也

横山助成

吉野信次

大達茂雄

五知事、親任官待遇
河原田稼吉 横山助成 吉田茂 内田信也 前田多門

【東京發電】第二艦隊は二日夜敵の機動部隊の出撃に備へ南方洋上の警戒に當つてゐたが、敵は我が空母一隻を撃沈破したのみで、我が主力艦隊の出撃に對し、其後は全く出現しなかつたので、我が艦隊は敵の本土空襲に備へ、二日夜、

臺灣日日新報　第一万五千五百六十四號　(第一種郵便物認可)

海軍志願の受附開始

歴史の朝・志願者殺到

本島若人の感激滾る

雪崩込む島都の海志

富田町管内は全員志願

正午迄に六百餘名

新竹市四日圓全部應ふ

早くも二萬を突破

新竹州下の海軍志願者

適格者の九十%志願

基隆市も好成績

七つの海を征く

今夕高砂大講演會

先生、學徒に滑空訓練

臺北を皮切りに講習會

最も效率的に

健民運動展開

應募者實に數倍

少年兵へ熱意頼もし

皇軍の進駐大歡迎

歩東地區の中國民衆

積極的に軍に協力

各所に軍に協力美談

國民體力檢査

補助員講習會

十日に開期

國鐵利用者に注意

立鐵關係巣立つ學徒

今年の割當決る

國語修得へ暮ら

見事な成果、更に錬成

傷痍軍人に就職斡旋

第二回海洋訓練隊

けふ晴れの終了式擧行

南方圏の體育を見る(一)

東洋的自覺に蘇る

澎湃たる健民運動展開

昭南マラヤの巻

巻のワヤジック

巻のスポーツ

巻のワヤジック

巻のスポーツ

巻のワヤジック

巻のスポーツ